広報

さめうがわ

1998 AUG.
8
平成10年 No.536



特集

障害に負けないで

私は一村民です。
先日、買い物に出かけ街を歩いていると、次のような光景を目にしました。
１人の障害者らしき人が、道をたずねていました。しかし、道行く人は、怖いものでも見るかのような冷たいまなざしで、その人を避けて通っているのです。でも、１人のやさしい女子高校生が、親切に道を教えてあげました。私は、ただ見ているだけでした。あの時、どうして助けてあげられなかったのだろう。そう思い、今とても後悔しています。

（広報に寄せられた１通の手紙）

「広報さめがわ」に一通の手紙が寄せられた。多くの人が、多少なりともこのような経験をしているかもしれない。障害は、特別なことではない。私たちは、いつ、ケガや病気に見舞われ、不自由な生活を強いられるか分からない。誰もが、常に「障害」と隣合わせに生きているといっても過言ではないだろう。私たち一人ひとりが、障害を自分のこととして考えること――。それが、目には見えない心の壁を取り除く最大の要素なのかもしれない。今月号では、一通の手紙を通して、障害を持つ人たちの社会参加と平等について考えてみた。



今年四月に開所した、知的障害者授産施設「鮫川たんぽぽの家」。
そこには、社会参加と自立を目指し、真剣なまなざしで作業訓練に取り組むひたむきな姿がある。

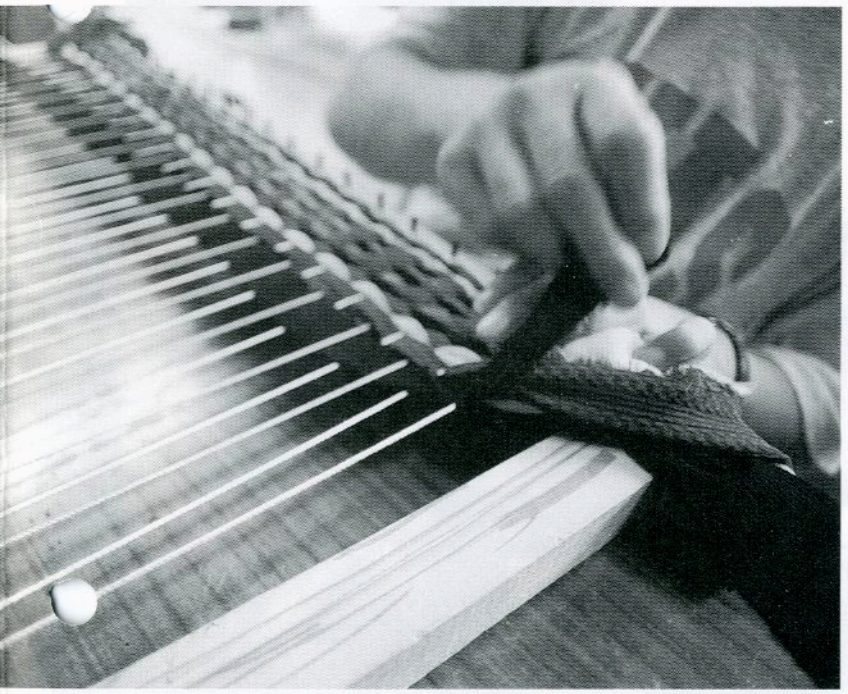
特集／障害に負けないで

知的障害者の自立の手助け 作業訓練で社会参加を目指す

知的障害者授産施設　鮫川たんぽぽの家



たんぽぽの家の１日はラジオ体操から始まる



足ふきマットの製作は、すべて手作業で行う

知的障害者授産施設「鮫川たんぽぽの家」は、今年四月、西郷村の社会福祉法人甲子の里福祉会が運営する「甲子の里希望の家」の分場として開設された。

村が、障害者福祉の充実を図るため、大字赤坂中野字新宿地内、旧母子健康センターの建物を改修。二つの作業室、食堂、医務室、談話室などを整備したほか、備品なども提供した。

この施設は、働く能力を持ちながら、一般社会での適応能力に欠ける十五歳以上の知的障害者を、社会人・職業人として自活させるための訓練を行う。

現在、村内に住む十四人と棚倉町から三人、合わせて十七人が通所している。年齢



指導員の助言を受けながら丁寧に作業をこなす

社会人・職業人として自活させる



細かい作業は集中力を要する



大豆畑の除草作業

は、十六歳から四十三歳までとさまざまだ。

スタッフは、施設長一人と指導員が五人。通所者それぞれの能力や状況に応じて、社会生活への適応・作業能力の開発を手助けしている。

◇　◇

たんぽぽの家の一日を追ってみた。

通所者は、午前八時三十分に出勤する。路線バス、幼児バス同乗、家族送迎など、通所方法はさまざまだ。

たんぽぽの家の一日は、ラジオ体操から始まる。朝礼のあと、午前九時に作業を開始する。作業科目は、施設が自主的に行う「自主作業」、公共施設の清掃などの「委託作業」、企業の仕事を請け負う「下請作業」がある。

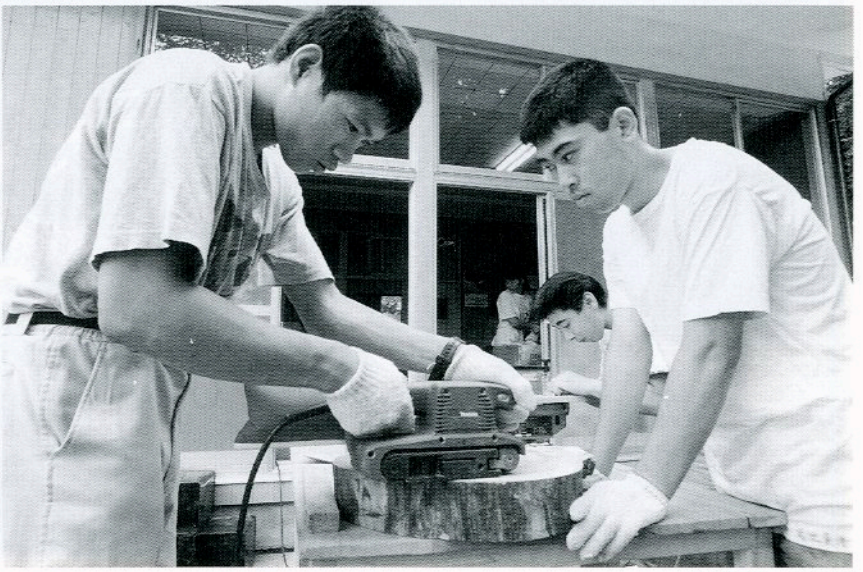
自主作業では、木工・竹細工、足ふきマットの製作のほか、農耕作業やアルミ缶の回収を行う。

木工・竹細工は、花台、花器、靴ベラなどのほか、箸置きなどの小物まで製作する。そのため、繊細な作業技術と集中力を要する。指導員の助言を受けながら、電動糸ノコ、サンダーなどの機械や、ノミや彫刻刀などを使い丁寧に仕上げる。足ふきマットは、一定の長さにそろえた布を一本一本編みあげる。色の組み合わせは意外と難しい。一人ひとりの個性が表れ、それぞれに違った趣がある。

また、村内に約十五アールの畑を借り受け、大豆とソバを栽培している。大豆は、味噌を作るための原料となる。味噌を手作



昼食は楽しいひととき



機械を使った作業

ここは施設ではなく働きに来る場所なんです

通

りし、販売する予定だ。通所者は、種まきから収穫まで一連の作業を行う。取材の日も、汗だくになりながら除草作業を行っていた。

委託作業は、館山公園の除草作業を引き受けている。また、下請け作業は、パッキンの袋詰めやニット製品の部分仕上げ、薪切りなどを行っている。

一日の作業は午後四時に終了する。その後、全員で清掃、終礼を行い退勤する。

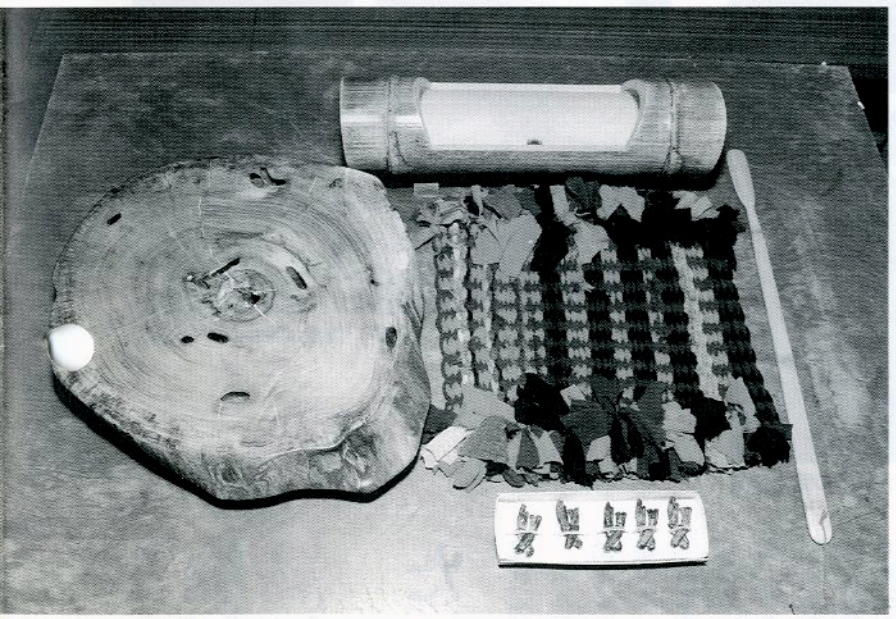
たんぽぽの家ではこのほかに、年間を通して、花見、会食会、親子運動会、芋煮会、成人式、テーブルマナーなど、さまざまな行事が行われる。こうした行事には、保護者会が全面的に援助・協力を行う。

◇　◇

所者は、在宅で生活していたため能力を発揮できずにいたが、仲間と切磋琢磨することにより、眠っていた能力が徐々に現れはじめてきた。以前よりも自己表現もできるようになり明るくなったという。

通所者の一人に、「仕事は楽しいですか」と尋ねてみた。仕事の手を休めることなく「とっても楽しいです」と笑顔で答えてくれた。働くことの楽しさが、その表情から素直ににじみ出ていた。

施設長の小野崎秀夫さんは、「ここは施設ではなく、働きに来る場所というとらえ方をしてほしい」と話す。通所者は、社会生活の経験を積むと同時に、職業人としての第一歩を踏み出して



製品はいずれも見事な仕上がり





作業は施設の内外で行われる

いるのだ。

「今後は、各企業に理解をいただき、実習の受け入れ体制を整えてもらえれば…」。施設長はそう話す。

◇　◇

「鮫川たんぽぽの家」。この名称は、大字石井草字大根屋敷在住の萩原實さん夫妻が考えた。「障害を持っていても、一人の社会人として、たんぽぽのように根強く、そして、たくましく生きてほしい」。そんな願いが込められている。

親として

村心身障害児（者）親の会会長
鮫川たんぽぽの家保護者会会長

舟木　久さん
（赤坂西野字岡田・48歳）



「鮫川たんぽぽの家」の利用者は、これまでは村外の施設に入・通所、または在宅で生活していました。以前から、村内に施設ができることを私たちは望んでいました。自宅から通所できるということは、親として大変うれしく思います。精神的なゆとりも出てきました。

多くの人に「鮫川たんぽぽの家」の存在を知ってもらうことで、障害者に対する社会的な理解にもつながることと確信しています。そのためにも、地元の人たちとの交流の場を持ちたいと考えます。

また、心身障害児（者）親の会は、「共に生きる心を　共に生きているよろこびを　共に生きる社会を」をテーマに活動しています。

私たちの会員の中には、障害を持っているということで偏見の目で見られたという人も少なくありません。

障害者がいる家族は、以前はそれを隠したいという傾向がありました。しかし、最近では存在をアピールしようとする動きが高まっています。「障害」は決して恥ずかしいことではありません。隠す必要もありません。

生まれながらにして障害がある人、生まれてから何らかの原因で障害を持つ人とさまざまですが、誰もがその要因を持ちながら生活しています。

誰もが「生きる権利」を持っているのですから、障害がある人もない人も、同じ人間として平等でなければならないと思います。

●心身障害児（者）親の会

村内に居住する知的障害児（者）、肢体不自由児などを持つ保護者の会。会員相互の親ぼくと、心身障害児（者）の教育、保護、職業指導など、障害の克服・障害者の自立を目的に組織している。この会の趣旨を理解し、賛同いただける賛助会員も募集している。

【問い合わせ】　住民課福祉係（☎49－3111、内線234）

特集／障害に負けないで

12年前に脳出血で倒れ半身不随に
前向きな姿勢で障害を克服

大字西山字菅田　生田目正次さん（62歳）

「今日は暑いなあ」。そう言いながら玄関先で出迎えてくれた生田目正次さん（大字西山字菅田在住）。左半身が不自由とはいえ、背筋がピーンと伸び、その姿は威厳さえ感じられた。

正次さんは、十二年前の昭和六十一年に脳出血で倒れた。救急車で運ばれ入院、手術を行い一命は取り留めたが、左半身不随となり、いわゆる「身体障害者」になってしまった。

立ち上がることができず病床に臥す夫の姿を目の前にして、妻のキミ子さんの脳裏には「一生このままになってしまうのか」という不安がよぎった。一方の正次さんは、「このままではいられない。何としてでも歩けるように頑張らなければ…」。それでも三年くらいは歩くのが怖かったという。

正次さんは、左半身を使えないといういらだちを感じながらも、必死にリハビリを続けた。家族に迷惑をかけられないという気持ちもあったからだ。そんな夫の頑張りに、キミ子さんもできる限り支えになった。

今までの生活とは変わってしまったが、必死に生きようとする気持ちと、家族の温かさは変わらなかった。

元来、働き者だった正次さんは、これまでの経験を生かし、今では家畜の世話や畑仕事、身の回りのことを左半身をカバーしながら器用にこなすまでに回復している。ちょっとした用足しなら自分で済ます。歩くのが困難な場所への移動には「バッテリー式電動三輪車」を用いている。また、血圧が高いため、食事には人一倍気をつかい野菜などの食材は自分で作っている。

体を動かすことと人との付き合いが楽しみです



自宅の坂道も杖を使って歩く。後ろに見えるバッテリー式電動三輪車は、正次さんの重要な足となる



奥さんのキミ子さん(左)と一緒に。正次さんは、いつも笑顔を絶やさない。

ひだまり荘のデイサービスに通い、村が行う「※ふれあいリハビリ教室」にも積極的に参加する正次さんは、体を動かすことと、人との付き合いが一番の楽しみだという。

「リハビリは正直言って疲れる。しかし、そんな甘えたことは言ってられない」。あくまで考え方は前向きだ。

「私たちのような障害者でも気軽に利用できるように、すべての公共施設に手すりやスロープがあれば…」。正次さんの願いは、障害を持つすべての人たちの願いでもあるだろう。

「ここまで丈夫になったから、これからは夫婦で旅行を楽しみたい」。キミ子さんと顔を見合わせながらそう話す正次さんの表情からは、障害を乗り越えた自信のようなものが感じられた。

●ふれあいリハビリ教室

村が行う集団リハビリ事業。医療として行われるリハビリとは異なり、参加者相互の交流を通して、生活に意欲を持たせ、心身機能の維持増進と生活場面の自立を援助する。レクリエーション、日常生活訓練、手工芸などを行う。対象は、村内に居住する18歳以上の人。

【問い合わせ】　住民課保健係(☎49－3111、内線237)

特集／障害に負けないで

共に生きる社会に

「偏見の目で見られた」「公共施設が利用しにくい」など、障害を持つ人やその家族の多くは、そのような悩みを抱えている。近年、「ノーマライゼーション」という言葉をよく耳にするが、果たしてそれは何なのか。石下恭子県南保健所長を訪ね、話を伺った。



福島県県南保健所 **石下恭子**所長

いしげ・きょうこ　福島県立医科大学卒。保原保健所長、二本松保健所長を経て、平成9年4月から県南保健所長を務める。二本松保健所長時代には、県内初の精神障害者通所授産施設「ニコニコふれあいセンター」開設に尽力するなど、障害を持つ人と持たない人が、同じ社会の中で「共に生きる地域づくり」のために、精力的な活動を行う。

――障害には、どのような種類があるのですか。

法律でいう障害には「知的障害」「身体障害」「精神障害」の三つがあります。

身体障害者手帳で利用できる制度

身体障害者手帳は、一定程度以上の永続する障害を持った人が、身体障害者福祉法による障害者であることを証明する手帳です。手帳の交付を申請する場合、医師の診断書が必要です。

手帳を持つことにより、等級、種別により異なりますが、次のような制度が利用できます。

- 重度心身障害者医療費の自己負担分の助成＝一・二級および三級の内部障害など
- 人工透析で通っている人に交通費を一部助成
- 身体上の障害を補うための車いすや補聴器などの用具（補装具）の給付、修理
- 在宅の重度の障害者が日常生活が容易になるよう用具の給付・貸与
- 褥瘡などの予防が必要な人に、紙おむつや消毒液などを治療材料として給付
- 人工肛門・人工膀胱を造設している人で、身体障害者手帳の交付を受けていない人に衛生機材を給付
- 就職などのために運転免許を取得しようとする人に、経費を一部助成
- 就職などのために、自ら運転する自動車の改造経費を一部助成

私たちは、誰でも年をとると足腰が弱ったり、視力が低下したり、耳が遠くなるなど、生活しにくい状態になると思います。そういう面から考えると、「高齢」も一つの障害であると思います。したがって、早いか遅いかの差はありますが、誰もが将来、障害者になるということなのです。そのように考えると、障害は特別なものではなく、自分のこととして考えることができるのではないでしょうか。

――近年、「ノーマライゼーション」という言葉が盛んに叫ばれていますが。これは、どのような考え方をいうのでしょうか。

障害を持っていても持っていなくても、それぞれの立場や状況によって制限されることなく、地域社会の中で同じように生きられるということです。すべての人が同じ人間として当たり前の生活が送れて、共に暮らし、共に生きていくことができる社会こそ自然であるという考え方をいいます。

厚生省では、平成八年から七カ年計画で「障害者プラン～ノーマライゼーション七か年戦略」として次の目標を掲げて実施していますので紹介したいと思います。

①地域で共に生活するために
②社会的自立を促進するために
③バリアフリー化を促進するために
④生活の質の向上を目指して
⑤安全な暮らしを確保するために
⑥心のバリアを取り除くために
⑦わが国にふさわしい国際協力・国際交流を

というものです。

――私たちは、障害を持つ人とどのように接すればよいのでしょうか。

まずは、心に壁をつくらないということですね。つまり、「特別な目」で見ないということです。

障害を持つ人が、人間として当たり前に生活していく上で不自由さを感じていること、不足している部分を、私たちが補ってやろうとする気持ちが大切だと思いますね。

――障害を持つ人も持たない人も、地域社会の中で共に生きていくためには、どのようなことが必要でしょうか。

まず、行政としては、誰もが生活しやすい環境をつくるということではないでしょうか。例えば、公営住宅などの公共施設は、障害を持つ人でも利用しやすい設備にすること。また、働く場所を確保するなど、障害を持つ人たちが一日を過ごす「日常生活の場」をつくることだと思います。

家庭では、幼少のときからの教育が大切だと思います。弱者をいたわる心というのは、小さいときからの家庭環境が大きく影響しますから…。

日常生活の中で、ごく自然に、当たり前にできる……。それが本当のボランティアではないでしょうか。

また、障害の程度にもよりますが、障害を持つ人も、世話を受けるばかりでなく「自分で生きていこう」とする「自立」の気持ちが必要だと思いますね。そこで足りない部分を行政や地域住民、家族が補ってあげることができるのですから。

ケガをして不自由さを実感



大字渡瀬字福原
蛭田久美子さん(44)

私は今年の6月に、バレーボールの練習中、右足のアキレス腱を切ってしまいました。

1カ月近く入院しましたが、動きたくても動けないといういらだちを感じながら毎日を過ごしました。

退院後も、車の運転ができない。お風呂に入るにも自由にいかない。日常生活が、こんなにも大変だとは思いませんでした。

ケガは日々回復していますが、改めて健康のありがたさを実感したと同時に、体に障害を持つ人たちの生活の大変さを感じました。

障害を持つ人に対して、今までとは違う目の向け方ができそうな気がします。

- 年金加入中に、病気やけがで障害の状態になったとき、障害基礎年金を支給
- 常時特別の介護が必要な人で、規定の障害が重複している障害者に特別障害者手当を支給
- 住民税・所得税の控除
- 自動車取得税・自動車税・軽自動車税の減免
- JR・国内航空・県内バスの運賃割引
- タクシー料金一部割引
- 有料道路通行料金の割引
- 世帯主である身体障害者が設置するテレビのNHK放送受診料の減免
- 生活福祉資金や住宅改造資金の貸付
- 自宅にホームヘルパーが出向き、家事や身体介護をするホームヘルプサービスの利用
- ひだまり荘でのデイサービスの利用
- 介護者の休養や病気などのとき、短期間、施設での介護が受けることのできるショートステイ
- 自宅に簡易入浴設備を持参し、入浴する訪問入浴サービス
- 施設の利用＝社会復帰を目指す訓練の更生施設・在宅生活の人の生活の場である施設・働く意思と能力を持つ人の作業施設

【問い合わせ】 住民課福祉係(内線233)

特集／障害に負けないで

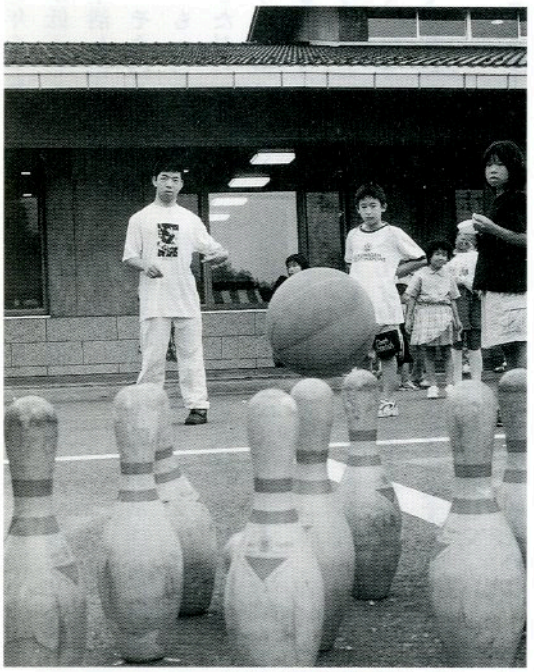
障害者への理解を深める

第2回 ふくし夏まつり

村と村社会福祉協議会主催による「第二回ふくし夏まつり」は七月二十五日、村高齢者総合福祉センター「ひだまり荘」で開かれ、介護を必要とする高齢者や心身障害者らが一堂に会し、交流を深め合った。



ふるさと文化芸能クラブによる慰安演芸



人気を集めたボウリングコーナー

ふくし夏まつりは、在宅心身障害者の外に出るきっかけづくりと活動の場の提供、また、障害者や高齢者への理解を深めようと開かれた。デイサービス利用者、心身障害者やその家族など約三百五十人の来場者でにぎわった。障害を持つ人も持たない人も、若者も高齢者も、「共に生きる社会」を目指すことを最大の目標としている。

まつりは、ふるさと文化芸能



前田トシエさん
（78歳・官代）

今年も「かくし芸」を披露

私は、人を笑わせるのが大好きです。今年も、飛び入り参加でかくし芸を披露しました。大勢の観客から拍手を浴びるのは、とても気持ちがいいものです。年を重ねるにつれ足腰が弱ってきましたが、また来年に向けて準備をしたいと思います。



石井　一郎さん
（70歳・虹ケ沢）

楽しかったスイカ割り

私は、スイカ割りに参加しました。大勢の声援を受けながら挑戦しましたが、スイカは割れませんでした。残念でしたが、あのひとときは楽しいものでした。このように、村民が集まり、和気あいあいと過ごせる時間は、私にとって楽しみなことです。



楽しいひとときを過ごしました



スイカ割りを楽しむ参加者

バザー益金を村社協に寄付

～ かぼちゃ美人の会 ～

農産物の産地直売などを行っている主婦グループ「かぼちゃ美人の会」（鈴木リキヰ会長）では、ふくし夏まつりでチャリティーバザーを行い、その収益金を村社会福祉協議会に寄付されました。心より厚く御礼申し上げます。　村社会福祉協議会





参加者全員で合唱

クラブによる慰安演芸で幕を開けた。舞踊や民謡などが披露され来場者を喜ばせた。

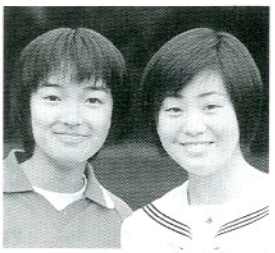
また、スイカ割りや手話コーラス、デイサービス利用者による発表会が行われ、最後は盆踊りで締めくくった。

会場内には介護用品が展示されたほか、知的障害者授産施設「鮫川たんぽぽの家」の通所者が作った足ふきマットや花台などが販売され人気を集めた。

村食生活改善推進ボランティア「ひまわりの会」、ふるさと文化芸能クラブなど六つの団体のほか、総勢三十三人の自主ボランティアの協力により、まつりは盛会のうちに幕を閉じた。

将来、福祉の仕事をしたい

私たちは将来、福祉関係の仕事をしたいと思っています。そこで、ふくし夏まつりにボランティアとして参加しました。射的の係だったので、お年寄りや障害者とあまり話をする時間がなかったので残念です。でも、自分のためになって楽しかったと思います。



水野綾子さん（右・14歳・伏木田）
岡部満枝さん（左・14歳・青生野）

来年以降も参加したい

私は「たこ焼き」を担当しました。そこで感じたことは、直接足を運んで食べに来るお客さんが少なかったことです。祭りは、「見る楽しみ」「やる楽しみ」があります。もっと多くの人が参加できるよう、来年以降も、何らかの形で参加したいと思っています。

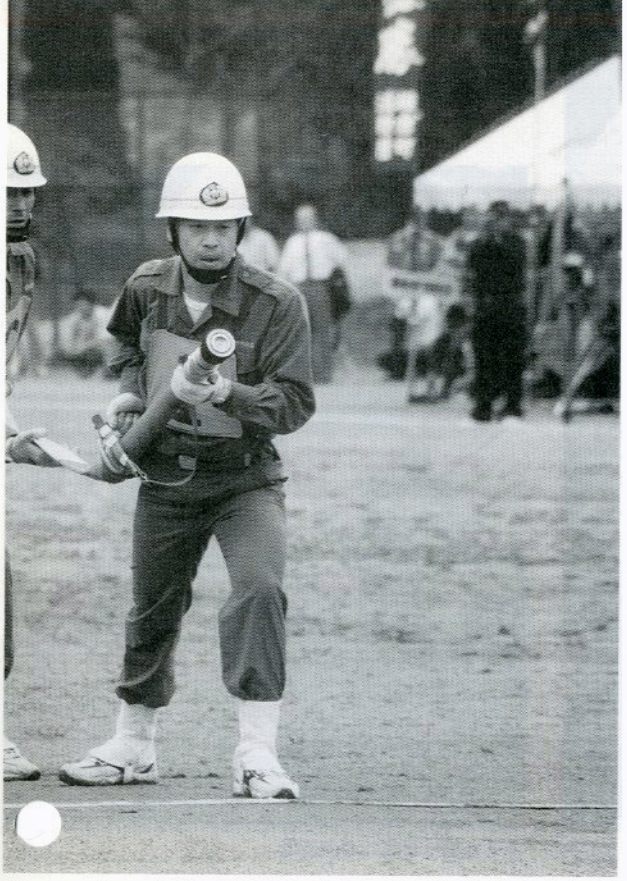


須藤　宏さん
（52歳・新宿）

健闘した村消防団

―消防操法競技東白川支部大会―

第三十一回福島県消防操法競技東白川支部大会が八月二日、塙小学校校庭で行われ、熱戦が繰り広げられました。村消防団を代表して、消防ポンプ自動車の部に第一分団、小型動力ポンプの部に第六分団が出場しました。審査の結果、第一分団が見事準優勝。第六分団も健闘をみせましたが、惜しくも入賞を逃しました。また、消防ポンプ自動車の部で指揮者を務めた生田目一広さん（辺栗）が、部門別の最優秀選手に贈られる個人賞を受賞しました。選手の皆さんは、きびきびとした動作で競技に臨み、約二カ月間にわたる厳しい練習の成果を十分に発揮しました。



チームワークもバッチリ



出場した選手の皆さん



お互いの健闘をたたえ握手を交わす選手たち



より速く、より正確に

9月9日は救急の日

九月九日は「救急の日」。また、九月六日から十二日までの一週間は「救急医療週間」です。救急医療および救急業務に対する国民の正しい理解と認識を高めることを目的に実施されます。

救急車到着前に応急手当を

急病やケガ人が、心臓や呼吸停止、大出血の場合、救急車到着前に適切な応急処置を行うことが、尊い命を救うために重要です。

村内の救急出動の際、通報から現場到着まで、昨年平均で約九分かかっています。救急隊が現場に到着してからの救急処置では、助からない場合があります。

救命率を高めるためには、現場に居合わせた人が、直ちに適切な応急手当を行い、救急車に引き継がなければなりません。

万一の事故に備え、日ごろから人工呼吸法や止血などの応急手当を身につけて

See you again.

また会いましょう ローラ先生

ハウス先生 ようこそ鮫川へ

Welcome to Samegawa.





任務を終了したローラ先生の後任として、ヘザァー・ハウス・ハール(Heather House Hall)先生がこのほど着任しました。

ハウス先生から一言

はじめまして。私の名前は、ヘザァー・ハウス・ハール。24歳です。普段は「ハウス」と呼んでください。

私は、フロリダの大学でビジネス経営を専攻し、5月に卒業しました。何年もの間、家庭教師、そして幼稚園の先生として、子どもたちと過ごしてきました。

趣味は、サイクリング、キャンピング、水泳です。音楽も大好きです。

私は、フロリダのタンパ出身です。タンパは、福島市のような大きな市で、たくさんの文化的なイベント——アートショーやコンサート、映画などが行われます。また、フットボールやホッケー、野球のチームもあります。人々は多種多様です。

鮫川村の第一印象は、「こんなにきれいな緑の山は見たことないな。フロリダと同じ野草がたくさんある。でも、鮫川村のユリの方が背が高くていっぱいあるわ」でした。

鮫川村の皆さん、お互いにたくさんのことを学びましょう。

平成7年に鮫川中学校に着任したローラ・キャサリン・デニソン先生が、3年間の任務を終了し、出身地のカナダに帰国しました。

ローラ先生は、鮫川中学校の語学指導助手として活躍し、また、村公民館事業の英会話教室にもご協力いただきました。

ローラ先生から一言

私は、鮫川村での素晴らしい3年間で、皆さんと出会い、働くことができて楽しかったです。いろいろなおいしいお食事や優しく語りかけてくれるお話は、とても楽しいものでした。

皆さん一人ひとりが、私に日本についていろいろ教えてくれて、鮫川村で教師としての価値のある、よい経験をさせてくれました。皆さんが、私と共に楽しく学んでくれていたらうれしいです。

皆さんの友情やご親切に感謝しています。お世話になりありがとうございました。

またお会いできる日を楽しみにしています。ぜひ、カナダに来てください。待っています。そのときまで、皆さんの頑張りが報われるよう祈っています。

よい未来を……。お体に気をつけて。





1秒でも速く

おきましょう。

救急法の指導講座を行います

棚倉消防署鮫川分署では、希望により「救急法の指導講座」を行いますので、お気軽にご連絡ください。

〔問い合わせ〕棚倉消防署鮫川分署（☎49-2119）

むらのできごと

広報にあなたの写真が載りましたら
さしあげますのでご連絡ください。
（☎49－3111 内線214）

夏の夜のコンサート

NHK交響楽団第一コンサートマスター・山口裕之さんと東京芸術大学、桐朋学園大学の学生と卒業生で構成する「フロイエンベルク・アンサンブル」の「夏の夜のコンサート」は、八月六日、「ほっとはうす・さめがわ」で開かれました。村内外から約八十人が訪れ、約二時間にわたり、ヴァイオリンやチェロなどの生の演奏を堪能しました。

ビバルディーの協奏曲「四季」や、モーツァルトの弦楽四重奏曲第十九番ハ長調K465「不協和音」など五曲を披露。また、アンコールの拍手がわき起こると、なじみの深い童謡のメドレーが披露され、盛んな拍手が送られました。

今回のコンサートは、学生らがほっとはうすで合宿を行うことになったことから、室内楽を多くの人に聴いてもらおうと開かれたものです。



名曲を堪能したコンサート

独身男女の集い



鹿角平を散策する参加者

8月9日、県南青年交流実行委員会主催による「独身男女の集い」が、鹿角平観光牧場で開かれました。

この集いには、鮫川村のほかに棚倉町、浅川町、表郷村、東村などから独身男女約50人が参加。ネイチャーゲームやパラグライダー体験飛行、バーベキューなどで交流を深め合いました。

同実行委員会では今年度、クリスマスパーティーやスキー旅行など、さまざまなイベントを計画しています。

お元気ですか

はしか



村国保診療所
菅野　誠先生

ここ数カ月、子どもたちに「はしか」が流行しています。はしかは、三八度から三九度の高熱が数日間続き、その後半日ぐらい下熱気味になったあと、再び発熱し、同時に発疹が出てきます。発疹は、顔や首に出現し始め、やがて全身に広がってきます。ひどい咳や目やにがみられるのも特徴です。この時期、口の中には「コプリック斑」といわれるミルクかすのような白い斑点がみられます。再発熱が二～四日間続いて、発疹が紫色に変色してくると下熱します。発疹が消えた後に色素沈着が残るのも特徴です。

高熱が続き下熱しないときや、一度下がった熱が再び上昇するときは、肺炎や脳炎などの合併症を疑わねばなりません。また、特殊な合併症として、ごくまれに「亜急性硬化性全脳炎」という、はしか

西野緑の少年団
県知事賞を受賞

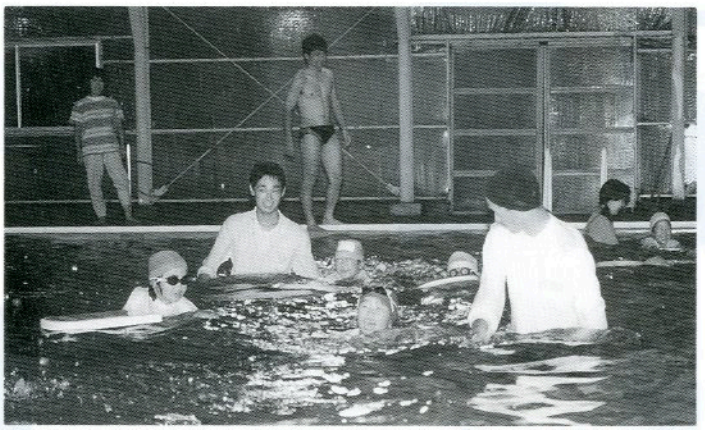
西野緑の少年団は、本年度の活動実績発表大会で、県知事賞（特選）を受賞しました。表彰式は、7月30日、安達郡大玉村の県民の森で開かれた「第25回県緑の少年団大会」の席上行われ、佐藤県知事から賞状と盾が手渡されました。

森林・野鳥保護活動や国チョウ・オオムラサキの保護活動など、積極的な活動が高く評価されたもので、県知事賞は2年ぶり4度目の受賞。今後ますますの活躍が期待されます。



受賞を喜ぶ団員ら

親子水泳教室で着衣泳を体験



着衣泳を体験する参加者

村教育委員会主催の「親子水泳教室」は、七月二十二日から八月四日までの期間中、五回にわたり開催され、小学生とその保護者合わせて約二十五人が参加しました。

教育委員会生涯学習課の木村真一社会教育主事が講師となり、水に慣れ親しむための水中ゲームなどを通して、楽しみながら水泳の基礎を学びました。

最終日には、服を着たまま泳ぐ「着衣泳」を体験。万が一の事故に備えて、真剣に指導を受けていました。参加者からは、「服に水が含んで重くて大変」という声が聞かれました。

また、ペットボトルなど、身近な物を使って水に浮くことも学び、充実した教室になりました。

青生野小「親子の集い」



ミニコンサートが行われた親子の集い

青生野小学校ＰＴＡ（鈴木清孝会長）主催の「親子の集い」が、七月二十四日、「ほっとはうす・さめがわ」で行われました。親子のきずなを深めようと毎年行われているもので、夏休みの恒例行事。

親子で協力して木工細工を行ったあと、キャンプファイヤーやクイズを楽しみました。引き続き、いわき市出身で石川町在住の歌手・菊池章夫さん（元阿呆鳥のメンバー）を迎え、ミニコンサートが行われました。ヒット曲「物語」をはじめ、テレビ番組の主題歌となった「愛した分だけ」など十一曲を披露。子どもたちは熱心に聴き入っていました。

に感染してから何年も後に発病する進行性脳炎があります。これは、低年齢、主に乳児期に感染した場合に多いといわれています。しかし、最近では予防接種の普及により大流行はなくなり、重症化する子どもも減ってきています。

感染は、飛沫感染で、口・鼻・目からウイルスが進入し発症します。非常に感染力が強いため、登園・登校は禁止となります。

家庭での看護面では、昔から非常に恐れられ、「部屋を閉め切って風にあてるな」とか「絶対に体を冷さないようにたくさん着せろ」などといわれていますが、現在は子どもの栄養状態も良く、合併症を起こすことも少なくなっているので、風邪などと同じように看病すればいいと思います。発熱がある間は、安静を守り、水まくらなどを用いて頭を冷し、水分を十分に補給することが必要です。

＊――――＊

【診療所から】

大字西山字馬場の鈴木公義さん（八十三歳）は、バラの花をいつも診療所に届けてくれています。

スタッフ一同、心から感謝申し上げます。

ふれあいひろば





村民リレー ⑤

自分を変えた卒業

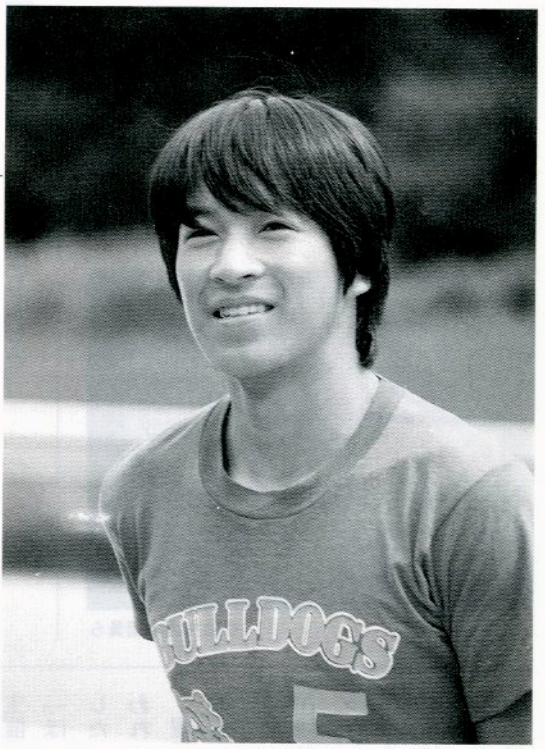
私は今年の春、塙工業高校を卒業しました。私にとってこの卒業は、大きな意味を持つ一つの節目だったと思います。自分を変える卒業であり、この社会を知る卒業でした。

私は今、棚倉町の日本精工で働いています。働くということがどれだけ大変か、今までの私には分かりませんでした。しかし、就職してその大変さが分かり、人生の大きな勉強になりました。

日本精工は交替制勤務なので、生活のリズムをくずしたり、体のコントロールなど、いろいろ大変な面がありますが、今の会社で働くことが自分の生きがいだと思っています。ですから、今の仕事をできるだけ続けたいし、精一杯がんばりたいと思っています。

今までの生活にはなかった楽しみも分かってきたし、今自分がやるべきことは何なのかも分かってきたので、今の生活は自分にとって最高の生活です。

次回は、岡部さんの紹介で、圓井利幸さん(広畑)の登場です。



岡部和彦さん

おかべ・かずひこ　大字渡瀬字青生野在住。日本精工〔株〕福島工場（棚倉町）に勤務。趣味はスノーボード。19歳。

文芸

俳句

梅雨晴間遊船の子等手を振って　金沢　暁舟
石の橋木の橋渡り寺巡る　中井　恒峯
天恵の暑さ少年球を追う　矢部　正子
稲の青ぐんぐん押して来る平野　山本　朗史
去年三つ今年七つにぼたん咲く　大池　魚水
梅雨の街工事現場の笑い声　斎須　信子
穂肥利き色あざやかに甦る　北條素人坂
どの顔もすによごれてパンダかな　小山田清哲
ひぐらしは混迷戦後の日々語る　黒田　寿香
雨上がりたっぷりと盛るきうりもみ　金沢三津子
野菜穫る疲れ蛍火に癒される　前田　信子
つと過ぎてふと振り返る初蛍　山本五十鈴

短歌

廃屋の年ごと増えゆく過疎の村祖の嘆きのような雨　関根　一好
早押しのクイズに夫の緊張が映る画面に別人のよう　岡部　シゲ
身に余る巨き花咲くアマリリス折れはせぬかと支柱立てやる　鈴木　クニ
殺伐と心貧しい今の世も古木の桜変わらずに咲く　前田　栄美



仲間たち

鮫川ツーリング倶楽部

代表　斎須寛一・会員15人

鮫川ツーリング倶楽部は、バイクに対するイメージ向上と、仲間づくりを目的に、平成四年に結成されました。現在は、バイクが好きな二十歳代から五十歳代まで、幅広い年令層が加入しています。

年に一度、一泊旅行を企画。今年は、新潟県佐渡へ出かけました。

また、ツーリングのほか、村民駅伝やロードレース大会への協力なども行っています。

「季節ごとに、風のにおいを感じながら走る爽快感が魅力。バイクが好きで、交通ルールを守れる人なら大歓迎」と会長の斎須さん。

▼**問い合わせ**…斎須寛一さん（☎49-2123）

畦草を刈る山小田の黄昏を水鶏の鳴きて家路を急ぐ　　蛭田　正

お互いに青春時代を掘り起し語り明しぬ同級会は　　赤坂　朝子

雨の日は鎌が切れると老妻の草刈る姿は昔のきねづか　　藤田　末光

逃げ惑う蝶をよけつつ噴霧口より雑草にかかる束の間の虹　　須藤美代子

風邪に臥すわれを気使い訪ね来し友早々に帰りゆきたり　　石井　カヤ

幕末の激動に生きし慶喜の意気熾んなる絵巻にひたる　　森　芳子

花ならばとうに散るものマタタビの葉は白々と長持ちの彩　　小松セツ子

東京鮫川会からこんにちは

人と人との支え合い



鎌田美代子さん
（旧姓　森）
東京都田無市在住
赤坂東野字楢久保出身

鮫川村を離れ、はや二十三年になろうとしています。今は東京の公立保育園の保母として、また、二児の母としても奮闘する日々です。働く母は大変ですが、子どもが病気のときは、いつも鮫川の母が助けに来てくれます。そして実家の人たちがみんなで、共働きの私たちを支えてくれたおかげで、十八年間も働き続けてこられたと感謝しています。

鮫川と東京は決して近くはありませんが、私にとっては、とても近くて懐かしくて温かいふるさとです。子ども時代を振り返ってみても、いろいろな体験がプラスになっていると確信しています。複式学級だった東野分校時代は、自然の中で学ぶ授業がいっぱいでした。本校に通う二年間は、自転車で往復八キロメートル。坂ばかりで砂利道のため、よく転んだものでした。中学時代はまさしく思春期。悩みも多かったけれど、いつも友だちが支えてくれ、いろんなことに挑戦できました。

人が人でないと感じる事件が多発する今日このごろですが、人と人が支え合ったり、喜び合えたりできたなら、残酷な事件やキレたことによる事件は、決して起こらないだろうと思います。保育の仕事を通してみても、十年前とは、子どもや大人をとりまく環境は確かに変化しています。しかし、どんなときも人が互いに認め合い、支え合って、笑い合いながら生きていくことが大切だと実感していますし、鮫川で育った時期に、考えの土台を作ってもらった気がします。

最後に、「広報さめがわ」の温かさは、忙しい日々の励ましのお便りになっています。

東京鮫川会員の皆さん、あなたも「広報さめがわ」に登場してみませんか。ふるさとへの思い、近況などテーマは自由です。原稿を600字程度にまとめて、総務課広報担当まで写真を添えてお寄せください。

鮫川村役場　☎49-3111（代表）

村の人口

7月1日現在・（）は前月比

人口	世帯
4,916人（－7）	1,119戸（＋1）

男	女
2,440人（－2）	2,476人（－5）

今月の納付

- 村県民税　2期分
- 国民健康保険税　3期分
- 国民年金保険料　8月分

納期限　8月25日(火)

（納期内に納めましょう
口座振替の方は残高確認を）

こちら窓口

7月1日から31日までの届け出分

●お誕生おめでとう

地区	赤ちゃんの名前	月／日	保護者
内ケ竜	佐川（さがわ）　舞（まい）	6／27	一　男
草木	芳賀（はが）　美咲（みさき）	7／20	文　男



平成12年度から
「介護保険制度」がはじまります

人口の高齢化が急速に進む中、介護保険法が昨年十二月に国会で成立し、平成十二年四月から「介護保険制度」がスタートすることになりました。

社会全体で「介護」を支える

国の推計によると、二〇一五年には、国民の四人に一人が六十五歳以上の高齢者になると予測されています。現に、鮫川村では四人に一人が六十五歳以上です。それに伴い、寝たきりや痴ほう、虚弱などで介護を必要とする高齢者も、今後さらに増えると予測されています。

寝たきりとなっている期間も長期化傾向にあり、国の調査の結果、三年以上寝たきりの高齢者が半数以上を占めています。

介護をしている人の八五％が女性です。また、六十歳以上の人が五〇％を超えるなど介護者の高齢化が進み、「高齢者が高齢者を介護する」ということが多くなっています。

介護を必要とする高齢者がいる家庭では、家族の負担が増大します。精神的・肉体的負担のほか、休職や転職しなければならないことも少なくありません。

総理府の調査によると、国民の九割以上が老後に不安を感じ、寝たきりや痴ほうなどで介護が必要な状態になることを、最大の要因としてあげています。

高齢者の介護に対しては、現在さまざまな福祉サービスを行っていますが、現行の制度には限界があり、対応しきれなくなってきます。

こうしたさまざまな理由から、社会全体で介護を支える「**介護保険制度**」がつくられました。

運営は市町村　対象者は40歳以上

介護保険制度の運営主体（保険者）は各市町村になります。

また、この制度に加入する被保険者は、四十歳以上の人全員が対象になります。

六十五歳以上の人は「**第一号被保険者**」、四十歳以上六十五歳未満の人は「**第二号被保険者**」と区分され、負担する保険料、保険給付の内容も異なります。

第一号被保険者

〔保険料〕　市町村ごとに所得

高齢者実態調査にご協力を

村では、介護保険制度開始に向けて、よりよい制度運営ができるよう、65歳以上の人を対象に「高齢者実態調査」を行います。この調査は、高齢者の生活の状況や、保健福祉サービスの利用状況などを把握するとともに、保険料を算定するための基礎資料となります。調査は9月から行います。担当地区の民生委員がお伺いしますので、ご協力をお願いします。

3,401千円～4,608千円（1坪当たり35,000円）**問い合わせ**／企画調整課企画振興係（内線221）


介護保険は社会全体で支え合う制度です

に応じて定額保険料が設定され、原則として老齢年金などから天引きされます。

平成十二年度の全国平均一人当たり保険料は、二千五百円程度（平成七年度価格で試算）と見込まれていますが、平成十二年度までに各市町村ごとに設定します。また、所得段階に応じて高くなったり低くなったりします。

〔保険給付〕 寝たきりや痴ほうなどで、日常生活動作について常に介護が必要になった状態（要介護状態）から、介護までは必要ないが、日常生活に支援が必要な状態（要支援状態）まで六段階に区分され、それぞれの状態にあった介護保険の給付が受けられます。

第二号被保険者

〔保険料〕 加入している医療保険の算定方法に基づいて設定され、健康保険料と一括して徴収されます。

〔保険給付〕 初老期痴ほう、脳血管障害など、老化に伴う病気によって介護などが必要になったときに、介護保険の給付が受けられます。

自己負担は一割

介護保険のサービスを受けた場合、利用者は、かかった費用の一割を負担します。

ただし、サービスを受けるには、介護の必要度を判定してもらうための「要介護認定申請」が必要になります。

＊――――＊

詳しい内容については、今後シリーズでお知らせします。

〔問い合わせ〕 住民課福祉係 ☎内線２３４

史・資料を探る
村史編さん室

村史資料を読む②

中世一七一 佐竹義宣書状（原本）上巻三七六頁

きっともうし候、よって分国中へ上洛に就て十分の一を懸け候、其方事地行（知行）分の積り（知行分計）を以て十分の一の金子あい澄（済）まさるべき事もっともに候、恐々謹言

霜月二日（天正十八年十一月二日）　義宣　花押

赤坂下総守　殿

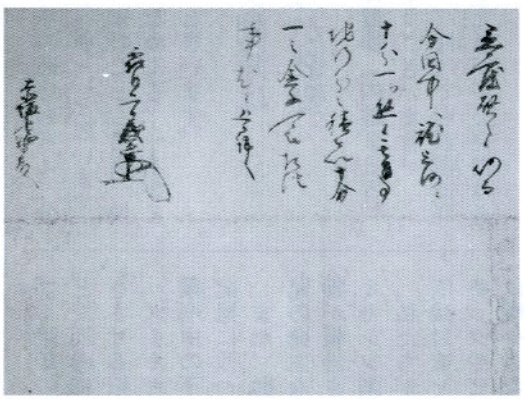
（本文書は秋田藩家蔵文書に収められているものの原本である。―秋田県立博物館所蔵―）

秋田藩家蔵文書中「赤坂文書」のほとんどは写本であり、原本の所在は分かっていない中で、今回の鮫川村史資料調査に当たられた小豆畑毅先生により秋田県立博物館に収蔵されていることが確認され、写真撮影掲載できた貴重な文書です。秋田県立博物館が買い取られたもので、所持者及び経移などは突きとめることはできておりません。

内容は、佐竹義宣が配下領主へ上洛のための費用をその知行高の十分の一相当納入すべく申し渡したもので、赤坂下総守（朝光）の佐竹配下が証されます。

天正十八年七月には、秀吉の小田原攻めにより北條氏直は自害、八月には会津黒川城にて奥羽仕置を済ませて帰阪します。

義宣が秀吉の催促に応じ謁見のため上洛したのは十二月十七日と佐竹家譜には記されています。



この時期、赤坂郷の草高を白川古事考は三千石と記していますから、これに同年一月、浅川攻めの忠節に対して、本領確認の根岸・松の入・中里の地及び新領宛行の大草を合わせたものとなるものと思われます。（中世資料一六八、三七三頁）

三百余石相当の負担は、決して少ない額ではありません。この上洛によって伊達政宗に次いで秀吉への従臣の礼を成すこととなり、秀吉の東国奥羽の制覇が果たされることとなります。以後、義宣は秀吉政権を背景に下野（栃木）、常陸（茨城）両国で五十四万四千石余りを領する大々名として慶長七年の秋田移封まで在地することになります。この間、赤坂城館は秀吉の命により羽黒（塙）、寺山（近津）などに次いで破却されています。

中野団地宅地分譲中　所在地／大字赤坂中野字宿ノ入　分譲区画／９区画　分譲価格／１区画





声

―広報直通便―

家庭でのゴミ焼却は周りの迷惑も考えて

匿名希望

燃えるゴミを、きちんと分別して収集所へ出す家庭は決まっています。あとはどこへと思うと、ほとんどの家庭では自家焼却しているようです。

ナイロン類、ポリなども燃やしているようですが、周りの迷惑も考え、分別ゴミとして出してほしいと思います。

現在、そして将来のことも考え、快適な環境づくりのためにも、一人ひとり心がけてほしいと思います。

ダイオキシン削減は各家庭の協力が必要

住民課保健係（内線235）

ご意見ありがとうございます。

ご指摘のとおり、村内でも家庭でゴミを燃やしている光景が多く見受けられます。

昨年環境庁が、ゴミ焼却の際に有毒物質の「ダイオキシン」が発生することを報告し、注目を集めました。また、ゴミ焼却の際に発生する煙やにおいなどで近所に迷惑をかけ、不愉快な思いをさせる原因にもなります。

ダイオキシンが、ベトナム戦争で枯葉剤中の不純物として使用されたのは記憶に残っていると思います。

また、動物実験で、発ガン性、奇形児の発生などの広範囲にわたる毒性影響が報告され、現在、さまざまなダイオキシン削減対策が行われています。

私たちが身近にできるダイオキシン削減対策として、各家庭では、プラスチックやビニールなどのゴミは、絶対に燃やさないように注意しましょう。

また、資源の有効利用のためリサイクル商品の活用・過剰包装などの削減にみなさんのご協力をお願いします。

普段あなたが考えていること、村づくりに関する意見、提案など、皆さんの声をお寄せください。（住所・氏名明記、紙上匿名可）
〒963－8401 鮫川村大字赤坂中野字新宿39－5 鮫川村役場「広報さめがわ」行 FAX 49－2651

保健

住民健康診査

九月二日から十一日まで住民健康診査（基本健康診査、結核・肺がん・胃がん・大腸がん検診）を行います。最寄りの会場で受診してください。なお、今年度、人間ドックを受けた人は、受診する必要はありません。

〔日程および会場〕 別表のとおり（六時三十分受付開始）

〔診査項目別内容〕

基本健康診査

▼検査内容＝身体測定、血圧測定、尿検査、耳打診、血液検査、眼底検査、心電図検査**▼対象者**＝四十歳以上**▼受診料**＝五百円（七十歳以上の人および六十五歳以上で一定の障害がある人は無料）

結核検診

▼検査内容＝胸部X線撮影**▼対象者**＝十五歳以上**▼受診料**＝無料

肺がん検診

▼検査内容＝胸部X線撮影**▼対象者**＝四十歳以上**▼受診料**＝無料

胃がん検診

▼検査内容＝X線撮影**▼対象者**＝四十歳以上**▼受診料**＝五百円（国保加入者、七十歳以上の人および六十五歳以上で一定の障害がある人は無料）

大腸がん検診

▼検査内容＝便採取**▼対象者**＝四十歳以上の希望者**▼受診料**＝五百円

〔問い合わせ〕 住民課保健係（☎内線235）

住民健康診査日程表

月日（曜）	対象地区	会場
9月2日（水）	青生野	青生野集落センター
3日（木）	渡瀬	渡瀬区集落センター
4日（金）	西山	西山小学校体育館
7日（月）	富田	富田小学校体育館
8日（火）	赤坂東野（官代・広畑を除く）	発一開タ村セン山セ
9日（水）	赤坂西野	赤坂西野区民センター
10日（木）	赤坂中野（新宿・道少田を除く）・石井草・官代・広畑	発一開タ村セン山セ
11日（金）	新宿・道少田	発一開タ村セン山セ

休日の当番医

月日(曜)	病・医院名	所在地	電話番号
8/23(日)	あらまちクリニック	棚倉町	33-8018
	東舘診療所	矢祭町	46-3165
	大野病院	石川町	26-1181
8/30(日)	緑が丘診療所	棚倉町	33-9468
	中島医院	塙町	43-0373
	三瓶胃腸科医院	石川町	26-1234
9/6(日)	杉山胃腸科外科皮膚科	棚倉町	33-7551
	車田病院	塙町	43-1019
	愛恵会大野診療所	石川町	26-2615
9/13(日)	和田医院	棚倉町	33-2012
	塙厚生病院	塙町	43-1145
	中島病院	石川町	26-3415
9/15(火)	勝田医院	棚倉町	33-3008
	石川医院	塙町	43-0003
	大野病院	石川町	26-1181
9/20(日)	大木医院	棚倉町	33-2424
	木村医院	矢祭町	46-3528
	田中内科医院	石川町	26-3333
9/23(水)	東白川中央病院	棚倉町	33-3263
	金沢医院	矢祭町	46-2312
	富永医院	浅川町	36-2027

ごみ収集日

収集場所	種別	8月	9月
江竜田～中野町～福原～鍬木田～広畑～新宿～道少田～大塩コース	可燃物	3.6.10.13.17 20.24.27.31	3.7.10.14.17 21.24.28
	不燃物	7.21	4.18
さぎり荘～村営住宅赤坂中野団地コース	可燃物	3.6.10.13.17 20.24.27.31	3.7.10.14.17 21.24.28
	不燃物	5.19	2.16.30
鮫川分校(不燃物のみ) 鮫川中学校コース	可燃物	3.6.10.13.17 20.24.27.31	3.7.10.14.17 21.24.28
	不燃物	6.20	3.17
関下～越虫～青生野小学校～世々麦～葉貫～蕨ノ草～中沢～関口コース	可燃物	5.12.19.26	2.9.16.30
	不燃物	5.19	2.16.30
真坂～押目～酒垂～塚本～荻ノ沢～折戸～水口～官沢コース	可燃物	5.12.19.26	2.9.16.30
	不燃物	6.20	3.17
官代～遠ケ竜～大石草～大根屋敷～内ケ竜コース	可燃物	5.12.19.26	2.9.16.30
	不燃物	7.21	4.18
石井草～大久保～鬼越～赤柴～沼野沢～岩野草～薄ケ久保コース	可燃物	5.12.19.26	2.9.16.30
	不燃物	28	25

年金

追納できます 免除期間の保険料

将来、老齢基礎年金を受けるとき、保険料の免除を受けた期間の年金額は、保険料を納めた場合の三分の一となり、老後の年金に不安が残ります。

免除を受けた期間については、十年前までさかのぼって納めることができます。これを「追納」といいます。

学生などが就職して生活に余裕ができたときは、追納することをお勧めします。

免除を受けた期間の保険料を、平成十年度中に追納する場合の金額は表のとおりです。

平成10年度中の追納保険料額(月額)

免除期間	追納保険料	免除期間	追納保険料
63年度	11,200円	5年度	11,690円
元年度	11,030	6年度	11,710
2年度	10,980	7年度	11,700
3年度	11,150	8年度	12,300
4年度	11,390	9年度	12,800

募集

趣味の講座 楽しい写真教室

〔期日〕八月二十八日(金)～十一月十八日(水)までの期間中、計八回
〔場所〕山村開発センターほか
〔講師〕郡山市・福島フジカラー 鈴木啓一課長
〔参加資格〕村内に居住する一般成人
〔申し込み方法〕八月二十五日(火)までに、参加申込書を村公民館へ提出してください。
〔その他〕本講座による作品を、村文化祭で展示します。
〔問い合わせ〕村公民館(山村開発センター内、☎49-2247)

相談

心配ごと相談

〔日時〕九月二十一日(月)午前十時～午後三時
〔場所〕山村開発センター
〔問い合わせ〕村社会福祉協議会(☎49-3600)

行政相談

〔日時〕九月二十一日(月)午前十時～午後三時
〔場所〕山村開発センター
〔相談員〕行政相談委員・赤坂基(☎48-2333)

寄付

(敬称略)

▼社会福祉事業のために(金員)＝ふるさと文化芸能クラブ(代表・有賀華子)かぼちゃ美人の会(会長・鈴木リキヰ)
▼ひだまり荘・さぎり荘に(おしぼり百枚)＝野島守男(広畑)

ふくしま駅伝選手募集 募集対象／村内在住者および出身者(中学生以上の男女)で健康な方

平成10年8月号 No.536
発行・編集／鮫川村役場総務課
〒963-8401 福島県東白川郡鮫川村大字赤坂中野字新宿39-5
TEL (0247) 49-3111 FAX (0247) 49-2651
印刷／佐藤印刷所

ふるさとのむかし話 ⑤

十六ささげとごまのから



むかしむかし、北野神社の氏子に、どうにも手のつけようがない、一人者の五郎兵衛というほうとう者の百姓が住んでおりました。

それはちょうど、北野神社の秋祭りのことでした。五郎兵衛は、その日もまた酒を朝からしこたま飲み、「ケッ、ばがこげえ、神様なんてどこにもいるもんであっか。もしいだら、矢でも鉄砲でも持ってきて、この俺様をしこたまぶちのめしてみろ」と大変ごきげんでした。そして夕方、五郎兵衛は豊年踊りでにぎわう神社へ出かけました。境内は、氏子達の豊年の喜びで、いっぱいの人だかりでした。

ドンドコドン、ドンドコドン、ドンドコドンドンドン……という太鼓の音に合わせて、十五か十六の娘が一人で楽しそうに踊っているのが踊りの輪の中に見えました。五郎兵衛がその娘をジイーッと見つめていると、娘も五郎兵衛に気があるのか、ジイーッとこちらを見つめてきました。やがて、意気投合した二人は、踊りもたけなわのころ、人目を避け、薄暗がりを求めてやぶの中へそおっと入っていきました。そしていろいろなことを一晩中語り明かしたそうです。

明け方近くになり、さすがの五郎兵衛も疲れて、ウツラウツラとつい寝入ってしまいました。そして、朝日がさし込み、五郎兵衛が目を覚まし、あわてて起き上がると、そこは十六ささげとごまの畑で、あの娘はどこにも見当たりませんでした。あせった五郎兵衛は、十六ささげのつるに足をひっかけ、転んだ拍子に目をごまの殻でいやというほど突いてしまいました。五郎兵衛は、ほうほうの体で家に帰り、痛い目をおさえながら、あの娘について氏子の者に聞いてまわりましたが、誰も娘を知る者はありませんでした。

やがて、娘のことも忘れかけたころ、いつまでたってもごまの殻で突いた目が治らないので、高名な占い師に聞くと、北野神社様が五郎兵衛を思って、試練を与えてくださったのだから、百姓仕事に精を出せば、目はたちまち治るとのことでした。その後、五郎兵衛は神様を侮辱したことを深く悔い、百姓仕事に一生懸命精を出し、村一番の百姓になり、三国一の花嫁をとり、幸せに暮らしたそうです。

それを聞いた北野神社の氏子の人達は、五郎兵衛が村一番の百姓になったのがねたましく、「十六ささげとごまを作って、ばちが人様に当たっては申しわけがない」と皮肉を言い、作らなくなってしまったそうです。それが今では話が変わり、十六ささげとごまを作るとばちが当たると代々語り継がれ、北野神社の氏子達は作らないことにしているそうです。

あとがき

生　田日正次さんは、病気により左半身が動かなくなってしまいましたが、障害を少しも感じさせません。取材の日も、孫の面倒をみたり、にわとりにエサをやったり、身の回りのことは自分でこなしていました。これまでの苦労も、全部笑い飛ばしてしまいます。「体を動かすことが一番の楽しみ」。そんな言葉が返ってくるとは想像もしていませんでした。前向きに生きている姿に頭が下がる思いです。（舟木）

今月の表紙



第2回ふくし夏まつりの一コマです。「福祉レクネットワークinふくしま」の指導によるレクリエーション。指先を使ったゲームに夢中になる参加者たち。楽しいひとときを過ごしました。